



2019年8月9日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ
 代表者名 代表取締役社長 クォック・ゲイリー・ヤン・クエン
 (コード：9704 東証第1部)
 問合せ先 取締役CFO 佐藤 暢樹
 (TEL. 03-3436-1860)

営業外収益および営業外費用の計上ならびに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は2019年12月期第2四半期累計期間（2019年1月1日～2019年6月30日）において、営業外収益および営業外費用を計上することといたしましたのでお知らせするとともに、最近の業績動向等を踏まえ、2019年2月14日に公表した2019年12月期第2四半期累計期間（2019年1月1日～2019年6月30日）および通期（2019年1月1日～2019年12月31日）業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外収益（持分法による投資利益）および営業外費用（為替差損）の計上

営業外収益において、オーストラリアにおける分譲住宅用土地を販売する持分法適用会社の投資利益として145百万円を計上することといたしました。

一方で、為替相場の変動により、2019年12月期第2四半期連結累計期間（2019年1月1日～2019年6月30日）において、40百万円の為替差損を営業外費用に計上することといたしました。

これは、主として当社保有の豪ドル建等の一部外貨建資産に対する為替相場が前期末に対し円高に推移したことにより発生した為替差損であり、今後の為替相場の状況によりこの額は変動いたします。

2. 業績予想の修正について

2019年12月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正
 (2019年1月1日～2019年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	3,400	35	△20	△90	△0円35銭
今回修正予想 (B)	3,200	30	100	20	0円08銭
増減額 (B-A)	△200	△5	120	110	
増減率 (%)	△5.9	△14.3	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2018年12月期第2四半期)	3,355	△57	△201	△280	△1円10銭

2019年12月期通期連結業績予想数値の修正
(2019年1月1日～2019年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	7,200	5	180	60	0円24銭
今回修正予想 (B)	7,200	100	130	10	0円04銭
増減額 (B-A)	—	95	△50	△50	
増減率 (%)	—	—	△27.8	△83.3	
(ご参考) 前期実績 (2018年12月期)	6,809	△73	△324	△446	△1円76銭

3. 業績予想の修正の理由

2019年12月期第2四半期連結累計期間の売上高は、主力事業の宿泊事業において、主としてホテル・アゴーラ リージェンシー大阪堺の一般宴会の利用が営業不振により伸び悩みが見られ、前回予想を下回る見込みです。一方、利益面においては、売上が当初の想定に至らなかったものの、その他投資事業における証券投資事業および霊園事業が寄与した他、宿泊事業において人件費の抑制に努めるなど営業費用の削減を行い利益の確保に努めましたが、営業利益は前回予想を若干下回る見込みです。経常利益につきましては、オーストラリアで分譲住宅用土地を販売する事業において、顧客への引渡しが当初の想定よりも早まった結果、持分法による投資利益145百万円を計上する一方、6月末にかけて、日本円が豪ドルに対して円高に振れたため為替差損を計上する等した結果、100百万円を見込んでおります。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は上記の理由により20百万円を見込んでおります。

また、通期の連結業績予想につきましては、売上高は、下期にかけて大阪難波に開業するホテル等により売上高の増加が見込まれる一方、上期における既存ホテルの売上高の進捗の遅れの影響が見られることから据え置いております。利益面につきましては、既存のホテルにおける保守費用の見直しや人員配置の適正化をはじめとした収益力を高める取組みの成果が見えてきたことから、営業利益は100百万円としております。また、経常利益以下につきましては、昨今の為替相場が円高に推移する状況を鑑み、当社が保有する豪ドル建て資産に対する為替差損を考慮し、経常利益は130百万円、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては10百万円としております。

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上